

中間レポート（案）のとりまとめ方法等について

1．経緯等について

第1回学識者懇談会座長合同会議、第1回検討小委員会にて構成の大枠を検討した。

第2回検討小委員会にて検討小委員会中間レポート骨子構成図（案）を作成、キックオフレポート骨子構成図（案）を推定、概略の工程を提示した。

第2回学識者懇談会にてキックオフレポート（案）と検討小委員会中間レポート（案）の関係を参考までに整理した。

2．現在の作成状況等について

第2回検討小委員会において、第3回検討小委員会時に中間レポート骨子案を提出する予定とし、現在鋭意作業中であるが、作業量が膨大であり遅延しているところ。

第3回検討小委員会（今回）では残りの論点の途中であるため、レポートにその内容を反映することが出来ない状況にある。

安全及び自立の検討小委員会においては、議論を深めるべきとの見解も存在する。

国土形成計画（全国計画）は素案が示されたところであるが、閣議決定は当初予定された時期より遅れていると聞いているところ。

3．今後の作業等について

第3回検討小委員会（今回）は、「課題への対応の方向性」に関する議論を中心とさせて頂きたい。

レポートは、第2回検討小委員会で作成した骨子案構成図（案）を基本として最終案をイメージして、検討小委員会の前に各機関及び各委員に提示し、具体的な指摘を受けた後に、最終検討小委員会に提示することとしたい。

中間レポートの各章の構成方法については、別添1のとおりとしたい。

キックオフレポート（案）と検討小委員会中間レポート（案）との関係については、別添2を元に、柔軟な修正を図りつつ作成を進めることとしたい。

「九州像」（第2章相当）については、各検討小委員会のテーマに限定した内容のみで構成することは理解が困難なものとなるため、全体を組合せた構成（キックオフレポート（案）と同様の構成）としたい。なお、「九州像」（第2章相当）の現段階の試作状況を別添3に示す。

レポートの各章の構成方法について

(1) 第 1 章の構成方法について

第 1 回学識者懇談会・検討小委員会座長会議資料 3、第 1 回検討小委員会資料 3 - 2、第 2 回検討小委員会参考資料 2、第 2 回学識者懇談会参考資料 4 より作成

(2) 第 2 章の構成方法について

前文 (理念、視点、追求する像等が記述されることを紹介)

第 1 節 (これからの圏土構造の理想像を自ら宣言)

第 1 項 (2 - 1 - 1) 第 1 回検討小委員会資料 3 - 1 を参考に作成

第 2 項 (2 - 1 - 2) 第 1 回検討小委員会資料 3 - 1 を参考に作成

第 2 節 (計画が立脚する理念と視点を明確化)

第 1 項 (2 - 2 - 1) 国土形成計画法第三条第一項を引用して作成

第 2 項 (2 - 2 - 2) 第 2 回検討小委員会資料 3 - 3 より抜粋し作成

第 3 節 (これから追求する将来像を明確化)

第 1 項 (2 - 3 - 1) 第 2 回学識者懇談会資料 2 より抜粋し作成

第 2 項 (2 - 3 - 2) 第 2 回学識者懇談会資料 2 より抜粋し作成

第 3 項 (2 - 3 - 3) 第 2 回学識者懇談会資料 2 より抜粋し作成

第 4 節 (圏域の重層的な構造を明確化)

第 1 項 (2 - 4 - 1) 第 1 回及び第 2 回学識者懇談会、第 1 回検討小委員会資料を参考に作成

第 2 項 (2 - 4 - 2) 第 2 回学識者懇談会の意見を参考に作成

(3) 第 3 章の構成方法について

第 2 回検討小委員会資料 3 - 3 に基づき検討した、第 2 回検討小委員会資料 3 - 2 及び第 3 回検討小委員会 2 - 2 より作成

「キックオフレポート(案)」と「各検討小委員会レポート(案)」の関係(案)

章	節	項目	標 題	安全	自立	活力
1			九州圏における現状と課題			
	(1)		九州圏の圏域構造の位置づけと特徴			
			発展する東アジア経済圏に開かれた国際的な九州圏			
			1) 東アジアと九州圏の歴史的つながり			
			2) 東アジアへの窓口としての九州圏			
			国内の食を支える地域、一大観光地としての九州圏			
			1) 国内の食を支える地域としての重要性			
			2) 温泉等の地域資源が豊富な九州圏			
			発展する九州北部の都市圏と地域を支える中核、中心都市			
			1) 九州北部の都市圏への人、モノ、情報等の集中			
			2) 中核、中心都市の中心部の空洞化			
			維持・保全が求められる中山間地域、離島等			
			1) 豊かな自然環境を有する中山間地域、離島半島等			
			2) 維持・保全が危ぶまれる集落の存在			
			3) 中山間地域等における社会サービス維持の難しさ			
			4) 九州北部、離島等の水循環系における課題			
			5) 海洋、沿岸圏土の環境保全の重要性			
			大規模産業の集積及び地域産業の高付加価値化			
			1) 自動車産業、半導体産業等の集積			
			2) 安全・安心、環境等新たなニーズに対応した新産業の創出			
			災害外力の著しい九州圏			
			1) 中山間地域、離島半島等の孤立			
			2) 頻発する水害、土砂災害			
	(2)		九州圏を取巻く経済社会情勢の転換			
			本格的な人口減少社会の到来、急速な高齢化			
			1) 東京圏への人口流出と九州北部の都市圏への人口集中			
			労働力人口の減少下での農林水産業等の停滞			
			1) 農林水産業等の就業人口の減少と新たな取組み			
			東アジアの経済発展と九州圏の国際化			
			1) 東アジアの著しい経済発展と九州圏の人、モノ、情報の流通、国際化の進展			
			高度情報化社会の進展と情報格差			
			1) 高度情報化社会の進展と南北間の情報格差			
			安全・安心、環境等に対する意識の変化			
			1) 近年の異常気象等による防災から減災への意識の変化			
			2) 豊かな水資源、自然環境、景観等への関心の高まり及びそれらの価値の増大			
			多様な価値観、ライフスタイルへのニーズの高まり			
			1) 自己実現の場としての様々な価値観の発生			
	(3)		九州圏をめぐる様々な課題			
			東アジアへのゲートウェイとしての役割と九州圏土の発展			
			1) 東アジアの経済発展に対応可能な国際競争力の強化			
			2) 東アジアにおける九州圏の存在感の向上			
			九州圏の圏土構造を踏まえた人口減少下における新たな成長戦略の構築			
			1) 基幹都市のさらなる機能強化と九州圏の情報、産業、文化の牽引			
			2) 多自然居住地域における継続可能な生活圏の再生			
			3) 中山間地域、離島半島等の維持・保全への対応			
			4) 地域の魅力創造による既存産業の再生			
			5) 九州圏の自立に向けた大規模産業の発展と新規産業の創出			
			災害外力が著しい九州圏への対応と安全・安心できる生活の実現			
			1) 近年の気象変動等に対する柔軟な対応			
			2) 減災の観点からの災害対策の必要性			
			3) 中山間地域等における社会サービスの確保のあり方			
			4) 日本の安全・安心な食を支える地域としての対応			
			5) 人間活動と人のプロセスが調和した物質循環系の形成			
			安全・安心、環境、生活等の多様な価値観への対応と新たな地域づくりの推進			
			1) 循環型社会の形成等、新たな価値観への対応			
			2) 広域的な環境問題等への対応			
			3) 価値観やライフスタイルの多様化に対応した地域づくり			
			4) 地縁型コミュニティの再生、子育て環境の再生			

章	節	項目	標 題	安全	自立	活力
2			新しい九州像			
	(1)		これからの時代の圏土構造			
			東アジア等に向かう圏土			
			独自性と特色ある自立的な圏土			
	(2)		理念と視点			
			計画の基本理念			
			九州圏広域地方計画をかたちづくる視点			
			1) 生活の安全と豊かな環境の追求			
			2) 自立的発展の推進			
			3) 活力ある経済社会の醸成			
	(3)		追求する将来像			
			東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成			
			自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏への再構築			
			多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成			
	(4)		追求する将来像			
3			九州圏の課題への対応の方向性			
	(1)		東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出			
			東アジアとの結びつきと九州圏産業の強化			
			1) 産業集積を活かした新たな産業展望			
			2) 新産業を核とした産業振興			
			3) ものづくり基盤の強化			
			東アジアに開かれた交流・連携の推進			
			1) 東アジアにおける九州圏の自立と連携			
			2) 観光資源等による魅力創出			
			東アジアの玄関口としての圏土構造の転換			
			1) 東アジアの玄関口としての社会基盤の整備			
	(2)		自立的な発展を形成する地域力の結集			
			それぞれの地域独自の魅力を活かした地域の形成			
			1) 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の強化			
			多様な機能が集積する都市と自然豊かな地域の互恵関係の形成			
			1) 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成			
			2) 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開			
			3) 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携			
			4) 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択			
			持続的な成長を実現する九州圏の形成			
			1) 持続的な成長を牽引する都市圏の形成			
			2) 多種多様な人材が集積する産業構造の形成			
			地域を支える産業の振興と安定的発展			
			1) 農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展			
	(3)		災害に強く暮らしやすい九州圏の形成			
			減災の観点を重視した災害対策の推進			
			1) 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進			
			2) 減災の観点を重視したソフト対策の推進			
			日々の暮らしを支える安全・安心の確保			
			1) 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成			
			2) 中山間地域、離島等におけるサービスの確保			
			3) 安全・安心な食を支える九州圏の継承			
	(4)		世界に誇れる美しい九州圏の形成と継承			
			循環と共生を重視した美しい九州圏の形成			
			1) 多様で美しい調和の取れた九州圏の保全と継承			
			2) 国際的な環境問題への取り組み			
			美しい九州圏を支える水循環系の形成			
			1) 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築			
			2) 海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全			
	(5)		多様なライフスタイルを実現する地域づくり			
			多様なライフスタイルを実現する取り組みの推進			
			1) 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進			
			2) 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり			
			ゆとりある子育て環境の創出			
			1) 地域の子育て力の強化			
4			九州像の実現に向けた戦略			今後適宜検討

本稿は、レポート第2章(九州像)を想定し、第1回及び第2回検討小委員会等において検討された内容・資料を基に、試みに作成したものである。今後、「第1章」(現状と課題)及び「第3章」(課題への対応の方向性)等と組合せ、各委員と各構成機関への意見照会等により修正することを前提としている。

第2章 新しい九州像(試作)

本章では、九州圏の現状を踏まえ、これからの新しい九州像について、その構造を見定め、今後の方向性に向けた、理念や求める像を明らかにすることを目的としている。

これからの九州圏は、東アジア等の外部に向けた姿と特徴ある圏域を形成していくことが求められていることを基本的な命題と捉え、そのために持つべき計画上の理念や対応の視点を明らかにしておく必要がある。そこで、九州圏広域地方計画をかたちづくる視点として、生活の安全と豊かな環境の追求、自立的発展の推進及び活力ある経済社会の醸成の視点をあきらかにし、それにより追求される像を規定した。

また、これからの九州像を、来るべき経済社会情勢の下、九州圏の特徴に立脚し、圏域全体を重層的な自立圏の視点から捉え直し、地域の課題の捉え方の違いにより、三層の自立圏として捉え、その考え方を明らかにした。

これらにより、次章以降に示す、今後の方向性に連結していくものである。

第1節 これからの時代の圏土構造

本節では、これからの時代の九州圏の構造が有する基本的な性格を、東アジア等の圏域の外部に向かう姿と、圏域の内部に向かう姿として、独自性と特色ある自立的な圏域の姿の明確化を図った。

2-1-1 東アジア等に向う圏土

九州圏が目指す新しい圏土構造は、成長する東アジアとの地理的近接性という特長を活かし、多頻度で多様なヒト・モノ・情報の国際交流の場として、アジアの中で確固たる位置づけを得る姿である。

九州圏は、他の圏域との関係に過度に依存することなく、アジアの中に存立する一地域として、圏域が有する活力と特長を活かし、国際競争力の強化によって圏域の自立を目指すとともに、東アジアの活発な経済活動の効果を我が国全体に取り込むゲートウェイとしての役割を果たす。

また、過去の経済成長において経験し克服してきた数々の成果を応用することによって、東アジアとの独自の関係を築く。さらに、他の圏域にない、気候、文化、産業等に関する素地を活かし、東アジアへの貢献や支援を目指す。

2 - 1 - 2 独自性と特色ある自立的な圏土

九州圏は、農林水産分野と工業分野の融合・連携を進め、新たな商品開発に挑戦しうる分野への適応を進め、雇用や生き甲斐を育む地域として活性化を目指す。また、圏土の中で多くを占める離島、半島や中山間地域など条件不利地域を抱える現状に対して、環境の保全や国土の保全や安全面で大きな役割を果たすことから、自助に加え公助・共助を中心とした支援体制を築くことを目指す。

また、豊かな自然と、これと近接しバランスよく配置された大小の都市という特色を持つ九州圏において、自立する都市と周辺地域との連携のあり方を、他圏域と競い実践し体現するとともに、地域が持つ豊かな自然・伝統文化などの地域資源を活用し、これまでの多様な地場産品、産地ブランドの増強により、持続可能なムラづくりをめざす。

さらに、日帰り圏にある都市と農村の交流が不断に行える環境の魅力を、圏域外なかでも東アジアからのビジターに提供し得る交流圏づくりを目指す。

第2節 計画の理念と視点

本節では、九州圏広域地方計画が有する基本理念とその理念に基づき計画をかたちづくる視点を規定する。これにより、計画に関する討議の区分及び計画策定の位置付けを明らかにするものである。

2 - 2 - 1 計画の基本理念

九州圏広域地方計画は、九州圏における人口、産業その他の社会構造の変化に的確に対応し、自立的に発展する地域社会、国際競争力の強化及び科学技術の振興等による活力ある経済社会、安全が確保された国民生活並びに地球環境の保全にも寄与する豊かな社会の実現を基本理念に置き、その実現に向け、持続ある圏土の形成や安全で豊かな市民生活の向上に係る施策やプロジェクトを適切に定める。

また、九州圏広域地方計画における施策の実施に関しては、九州圏域の発展に向けて、地方公共団体の主体的な取組みを尊重しつつ、圏域の団体や住民の積極的な参画と協力により、実効性の高い内容を定める。

2 - 2 - 2 九州圏広域地方計画をかたちづくる視点

九州圏が概ね10年後の社会に対する将来像を定めるとき、九州圏の特性及び九州圏を取巻く経済社会情勢等を背景として、生活の安全と豊かな環境を追求すると共に、九州圏における自立的発展を推進し、活力ある経済社会を醸成するため、現状の課題、方向性を的確に見据え、

その解決等に向けた戦略、施策等を的確に講じることが必要である。

(1) 生活の安全と豊かな環境の追求

九州圏広域地方計画では、生活の安全と豊かな環境の追求のため、3つの視点に留意して、概ね10年後の九州圏を志向する。

減災の観点を重視した災害対策の推進

九州圏は、わが国の中でも特に災害の多い地域であることを踏まえ、防災施設等のハード整備に加え、災害が発生した場合にも被害を最小限に抑える「減災」の視点

自然環境と人を取巻く社会活動と一体化した圏土構造の形成

九州圏の豊かな自然環境を継承するため、自然環境だけでなく人を取巻く社会活動を含めた循環、共生を図る視点

九州圏の多様な主体による形成

多様なライフスタイルを実現するため、多様な主体の参加、参画による個性と魅力ある九州圏の形成を目指す視点

(2) 自立的発展の推進

九州圏広域地方計画では、自立的発展を推進するため、3つの視点に留意して、概ね10年後の九州圏を志向する。

九州圏の置かれている状況を地域自らが考え解決する地域

九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自らが考え解決することを前提とし、地域の自助努力、主体的・総力的な取り組み等により、地域の活性化を図る視点

自立と連携による持続可能な地域

それぞれの地域が将来展望を有し、就業機会や社会的諸サービスを継続的に確保することで人の流れや経済の動き等を近づけるとともに、これら地域の互恵により九州圏の総合力が一層活性化するという好循環を生み出す視点

様々なライフスタイルを実現する地域

多様化する価値観の中で様々な主体が目的を相互に共有して社会参画し、緩やかに連携しながら活動を継続することを促すような、新たな地域経営の形成を図る視点

(3) 活力ある経済社会の醸成

九州圏広域地方計画では、活力ある経済社会の醸成するため、2つの視点に留意して、概ね10年後の九州圏を志向する。

東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出

経済成長の著しい東アジアと隣接する九州圏として、東アジアとの交流・連携を深め、東アジアの中で個性と魅力を創出し、発展を目指す視点

自立的な発展を形成する地域力の結集

地域特性、伝統文化等の地域特有の魅力を活かした産業の創出、振興を目指し、それらが相まって九州圏の総合力が向上・活性化するという好循環を生み出す視点

第3節 追求する将来像

九州圏は、今後、重要性の高まりつつある東アジアをはじめとする諸地域との交流・連携を進めつつ、人口減少が進展する中でも安定した経済成長を図り、圏域内における多様な主体の協働を促進し、経済力だけでなく社会面も含めた地域の総合力の結集を図り、安定・安心して住み続けられるように、均衡の取れた生活、安心・安心を感じることが出来る地域社会の実現、アジアの持続的成長への寄与及びアジアの玄関口としての競争力と圏域の美しさを求めていく。

2 - 3 - 1 東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

アジアと地理的に近接した九州圏には、経済・社会・文化における様々な交流の歴史がある。近年は、産学官および住民や観光客といった草の根レベルの交流が、近年活発に行われており、アジアの一部としての九州という将来像については、九州全体としての合意形成が図られつつある。中国、インド、ベトナムあるいはこれらに次ぐ新興国の経済発展によって、アジア経済は世界経済において存在感を強めるとともに、今後牽引役を担うと予測される、世界経済の成長の核のひとつである。九州圏はこれらアジア諸国との一体感を高め、企業活動や生活・余暇活動などにおいて、シームレス（障害・障壁のない）な交流圏域を目指す。これによって、成長するアジアのダイナミズム（活力）を、九州圏をゲートウェイ（窓口）とし、全国に伝播・波及することで、わが国の持続可能な成長に資することを期待する。

アジアの持続可能な成長のためにも、九州圏が果たす役割は現在より大きなものとなり得る。九州圏と東アジアは、その近接性ゆえに海洋および大気といった同じ環境を共有している。アジアの新興国の高度経済成長を、地球環境および広域アジアの地域環境保全の視点から、技術や人材交流によって支援することが、九州圏の新たな役割となる。とくに、国境を接する東シナ海の島嶼部については、国土としての明確な役割が位置づけられることが必要であり、そのうえで、海洋・水産資源等の開発・保全に関する、諸国間の連携・協力の場とする。

アジアの一部としてグローバルな（国際）交流圏を目指す九州圏の魅力は、その他の世界経済の核となる EU やアメリカ等の企業や人材、旅行者にとっても訴求力あるものとなる。その際に重要なのは、九州圏全体の総合力としての魅力度である。都市と自然が近接し、豊富な食材と温暖な気候、特色ある文化を誇る九州圏は、全域において各地域の個性と魅力を磨くことで、独自のグローバル（国際）化を目指す。

2 - 3 - 2 自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏の再構築

温暖で暮らしやすい九州圏には、自然と共生した生活を営む集落が多数存在する。これらの地域は、美しい自然と特徴ある歴史文化を育んできた、九州圏の魅力の重要な部分である。すでに人口減少と高齢化の影響が顕在化し、これを互助・共助によって克服してきた経験は、都市も含めて人口減少の局面に入る今後のわが国における、生活のモデル（参考事例）となる。

九州圏は、人口 30 万人程度の主要な都市機能の集中した都市が、全域にバランスよく立地しており、さらに人口 100 万人超の高度な都市機能を担う中枢都市も有している。自然豊かな地

域とにぎわいのある都市が、圏域全体にバランスよく配置されていることが、九州圏の魅力である。これら諸都市・地域が、自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏という将来像のために、それぞれの特長を活かした役割分担によって、持続可能な重層的都市・地域構造を維持し、さらに推進する。過度な集中による効率性の低下や環境負荷の増大を回避し、良好な自然環境や美しい景観を形成するとともに、自然と共生した豊かな生活を安全かつ快適に送れる、ゆとりある生活空間の維持・形成を目指す。

2 - 3 - 3 多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成

九州圏の総合力を担う各地域は、それぞれの特長を活かした取り組みと連携・交流により、多様で厚みのある活力あふれる自立した九州圏を形成する。圏域の自立に不可欠な持続可能な経済成長のために、牽引する新たな産業を創出する内発型成長の仕組みを確立する。これによって、従来圏外に流出し回帰しなかった若く優秀な人材への求心力を高める。圏域の成長のエンジンとなり得る、リーディング（牽引）産業は、既存の産業集積間や集積と研究開発や人材育成等、知の拠点との間の密な連携・交流によって促進されるとともに、国際交流圏を目指す九州圏は、都市における九州独自の創造的なソフト産業を育成・振興し、グローバルな頭脳に対するビジネス（事業機会）の門戸を広げる。

経済的な自立を牽引する産業集積や都市の発展と同時に、九州圏は自然豊かで暮らしやすいという独自の特長を維持するために、これらの地域において多様な主体の協働を促進するとともに、過度に都市に依存しない安心して住み続けられる生活主体の産業・活動環境が創造されている。このように、経済面だけでなく、文化や社会・生活面を含め、地域力を結集するために、相互依存・補完関係にあるブロック内の各地域が互いに交流・連携を促進する姿が九州圏の将来像である。

第4節 将来像を支える圏域構造の考え方

本節では、都市と自然の配置や歴史・文化において特徴を有する九州圏において、各々の地域の取組みの重層的な構成により、圏域全体の競争力強化と自立、および各々の地域の魅力の向上と自立の促進の基盤となる、都市・地域のあり方を導出するものである。

本稿は、レポート第2章（九州像）を想定し、第1回及び第2回検討小委員会等において検討された内容・資料を基に、試みに作成したものである。今後、「第1章」（現状と課題）及び「第3章」（課題への対応の方向性）等と組合せ、各委員と各構成機関への意見照会等により修正することを前提としている。